

Q & A

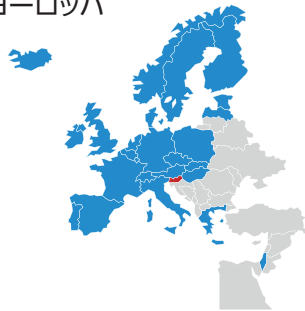
Q なぜ、不活化ポリオワクチンの追加接種が必要なのですか？

- A** 不活化ポリオワクチンは、現在、4種混合ワクチンに含まれ、1歳までに3回接種し、1歳過ぎに4回目の接種が行われています。
4回目接種後、上昇した抗体価は経時的に減衰します。この抗体価を再び上げ、ポリオの発症を防ぐためには、4～6歳での5回目接種が必要です。

Q 海外ではどのような接種スケジュールなのですか？

- A** 先進国の多くでは、不活化ポリオワクチンの就学前追加接種が行われています。

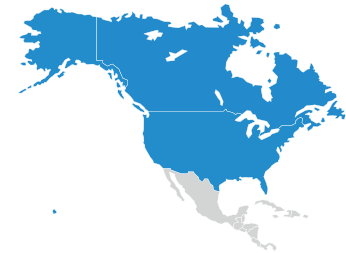
● ヨーロッパ



● 東アジア



● 北米



● オセアニア

■ 4歳以上での追加接種実施国*
■ 4歳以上での追加接種非実施国*

* OECD加盟国(メキシコ、チリ、トルコを除く)

[英国、ドイツ、フランス、イタリア、オランダ、ベルギー、ルクセンブルク、フィンランド、スウェーデン、オーストリア、デンマーク、スペイン、ポルトガル、ギリシャ、アイルランド、チェコ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、エストニア、スロベニア、ラトビア、スイス、ノルウェー、アイスランド、イスラエル、日本、韓国、オーストラリア、ニュージーランド、米国、カナダ]

European Centre for Disease Prevention and Control, Vaccine Schedule (2018年8月2日アクセス : <http://vaccine-schedule.ecdc.europa.eu/Pages/Scheduler.aspx>)

World Health Organization, WHO vaccine-preventable diseases: monitoring system. 2016 global summary

(2018年8月2日アクセス : http://apps.who.int/immunization_monitoring/globalsummary/schedules)

国立感染症研究所 日本の定期予防接種スケジュール(2018年8月2日アクセス : https://www.niid.go.jp/niid/images/vaccine/schedule/2018/JP20180401_01.pdf)
より作図

Q 国内にポリオウイルスが輸入されるリスクはありますか？

- A** 海外では、いまだポリオが流行している地域があり、ポリオウイルスが日本に持ち込まれるリスクはあります。国内への入国者数が年々増加している近年、不活化ポリオワクチンの追加接種を行い、しっかりと備えておくことが大変重要です。

Q なぜ追加接種のタイミングとして就学前がよいのでしょうか？

- A** 小学校の入学前は入学後に比べて高い接種率が期待できます。小学校入学前のMRワクチン接種と一緒に、不活化ポリオワクチンの5回目接種を行うとよいでしょう。

新潟大学大学院 医歯学総合研究科 小児科学分野 教授 齋藤 昭彦先生 からのコメント

今回、日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュールが改訂されましたが、3種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンが再度、スケジュールに入りました。

不活化ポリオワクチンが、2012年9月に定期接種に導入されてから、5年が経過し、この時に接種した子どもたちも今年6歳になります。

不活化ポリオワクチンの導入により、経口生ポリオワクチンによるポリオの発症はなくなりましたが、不活化のワクチンの特徴として、経時的に抗体価が落ちてくるという課題があります。したがって、ポリオに対する抗体価が減衰する前の接種が必要です。

ポリオはまだ世界で根絶されていません。海外の様々な国からの入国者が今後も増加することを考えると、いつポリオウイルスが国内に持ち込まれてもおかしくありません。

日本の子どもたちをポリオから確実に守るために、日本小児科学会の新しいスケジュールでは、就学前のMR2期接種と同じ時期に、不活化ポリオワクチンの5回目接種を推奨しています。

製造販売：サノフィ株式会社

〒163-1488

東京都新宿区西新宿三丁目20番2号